

# 鹿児島県農林水産物の輸出をめぐる状況



令和5年6月

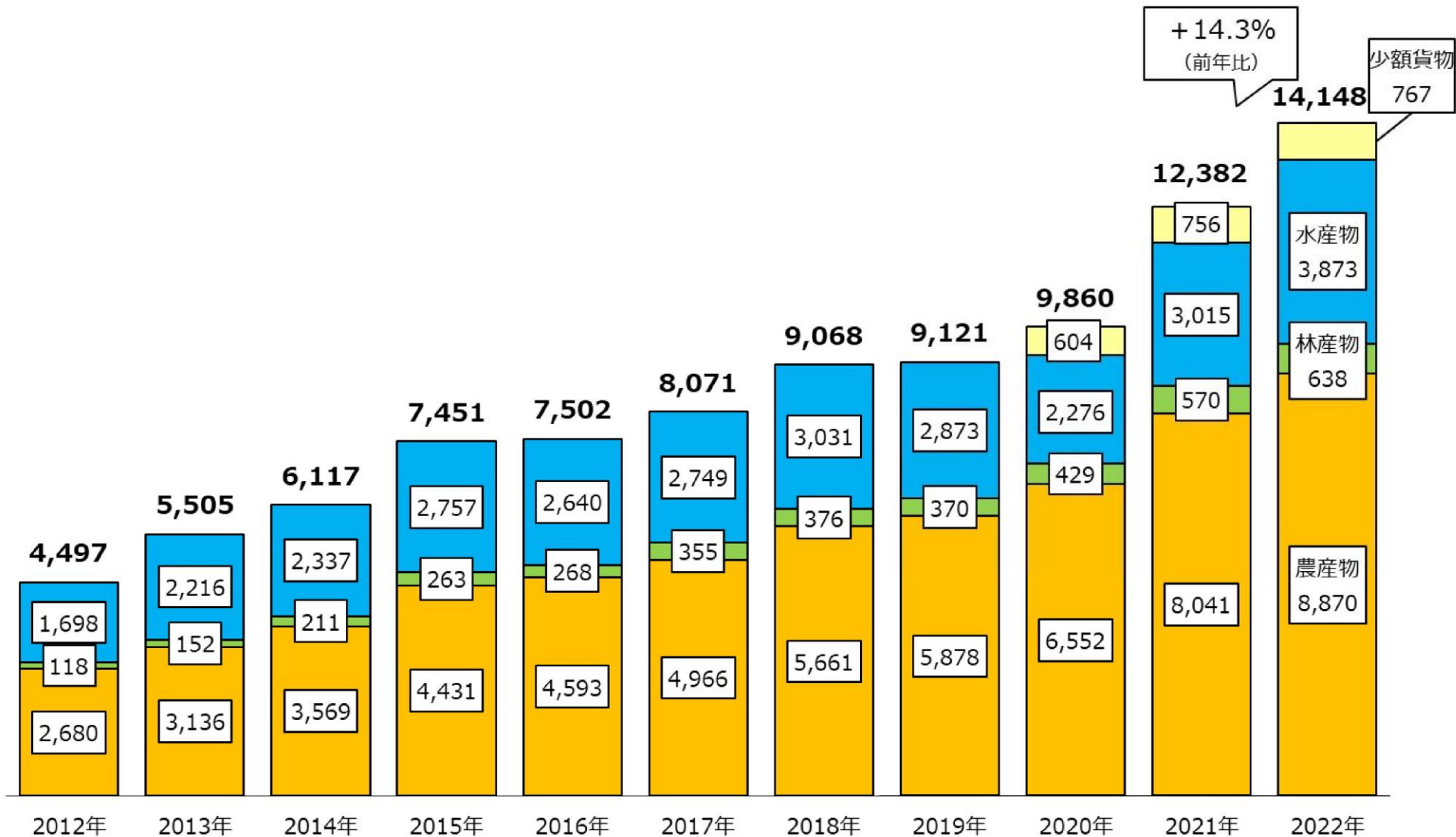
鹿児島県農政部農政課かごしまの食輸出・ブランド戦略室



# 農林水産物・食品の輸出額の推移(2022年)

※農水省ホームページより

(単位：億円)



※財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成



## 戦略の趣旨

- 2025年2兆円・2030年5兆円目標の達成は、海外市場で求められるスペック（量・価格・品質・規格）の産品を専門的・継続的に生産・販売する（＝「マーケットイン」）体制整備が不可欠



## 改訂の概要

- 輸出促進法等の一部改正法の施行（R4年10月1日）等を踏まえ、R5年度に実施する施策、R6年度以降の実施に向け検討する施策について、その方向性を決定

## 3つの基本的な考え方と具体的施策

### 1. 日本の強みを最大限に発揮するための取組

- ①輸出重点品目(29品目)と輸出目標の設定
- ②輸出重点品目に係るターゲット国・地域、輸出目標、手段の明確化
- ③品目回体の組織化とその取組の強化
- ④輸出先国・地域における専門的・継続的な支援体制の強化
- ⑤JETRO・JFOODOと認定農林水産物・食品輸出促進団体等の連携
- ⑥日本食・食文化の情報発信におけるインバウンドとの連携

### 2. マーケットインの発想で輸出にチャレンジする事業者の支援

- ⑦リスクを取って輸出に取り組む事業者への投資の支援
- ⑧マーケットインの発想に基づく輸出産地・事業者の育成・展開
- ⑨大口ト・高品質・効率的な輸出等に対応可能な輸出物流の構築
- ⑩輸出向けに生産・流通を転換するフラッグシップ輸出産地の形成
- ⑪輸出を後押しする農林水産事業者・食品事業者の海外展開の支援

### 3. 政府一体となった輸出の障害の克服

- ⑫輸出先国・地域における輸入規制の撤廃
- ⑬輸出加速を支える政府一体としての体制整備
- ⑭輸出先国・地域の規制やニーズに対応した加工食品等への支援
- ⑮日本の強みを守るための知的財産対策強化

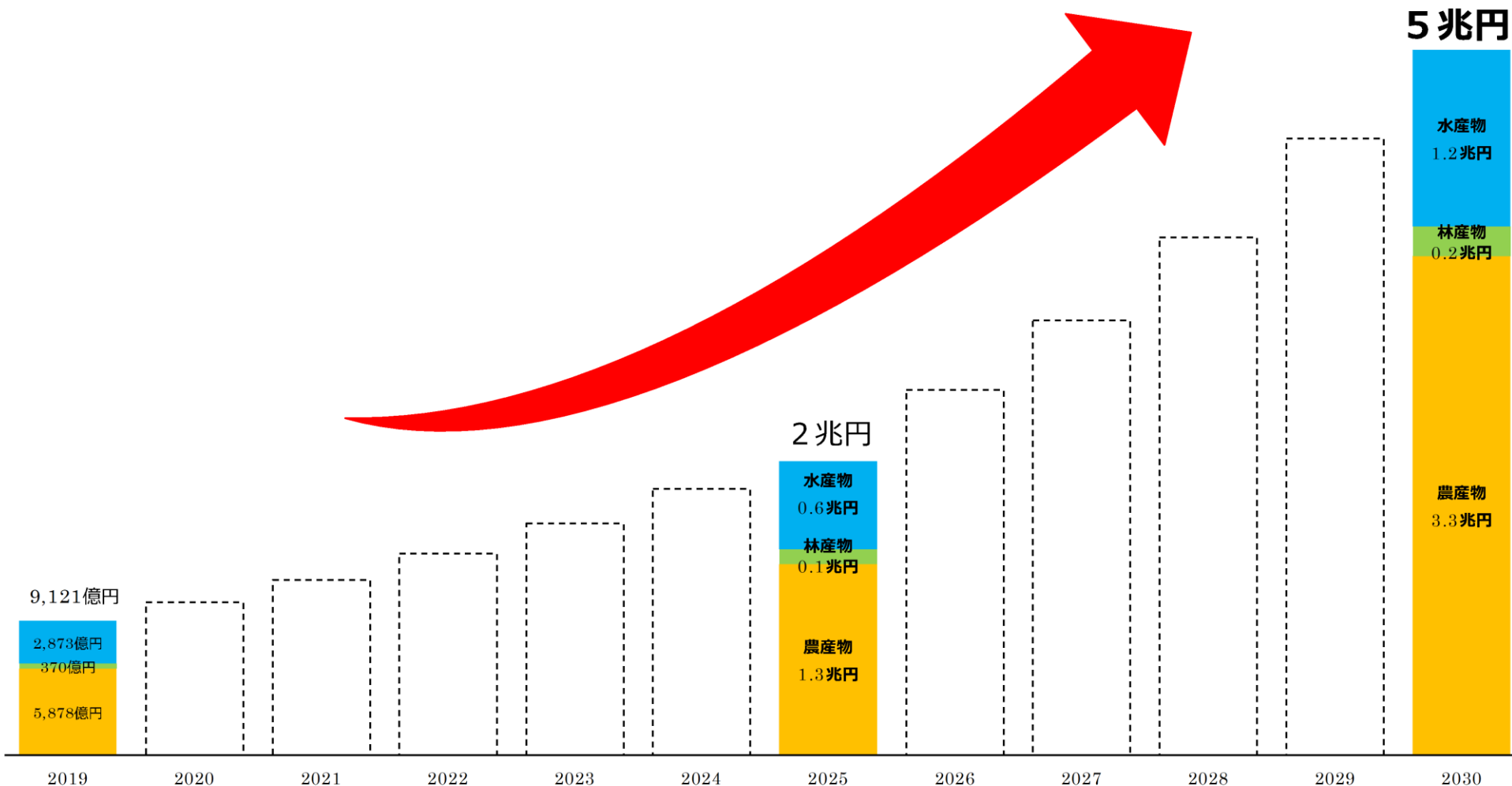
### 4. 国の組織体制の強化



# 農林水産物・食品の輸出額目標

農林水産物・食品の輸出額を、2025年までに2兆円、2030年までに5兆円とすることを目指す。

※農水省ホームページより

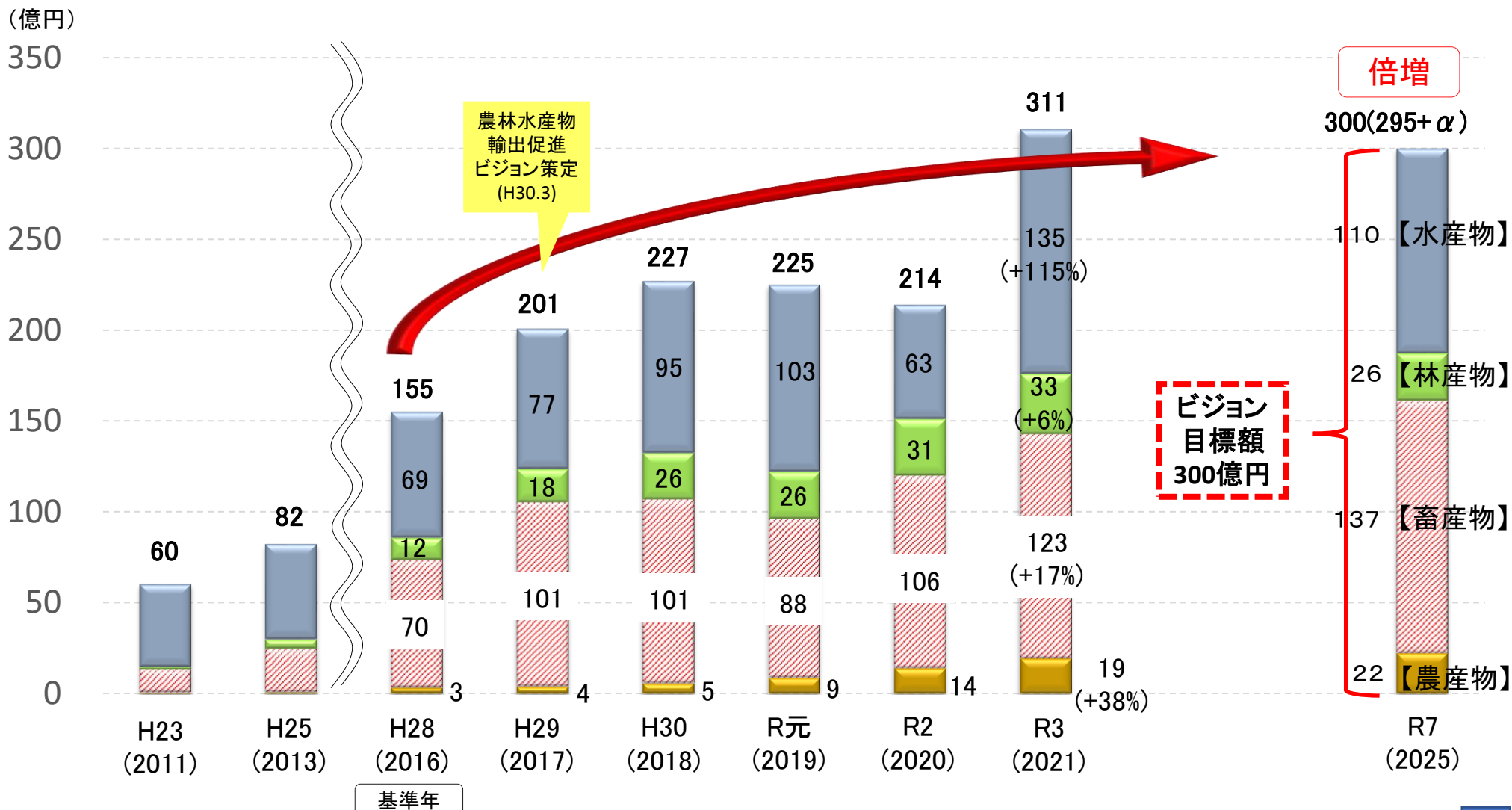


※少額貨物（1ロット20万円以下）を新たに輸出額のカウントに追加



# 鹿児島県産農林水産物の輸出額の推移と目標値

- 令和3年度の県産農林水産物の輸出額は対前年度比45%増の約311億円となり、ビジョンの目標年度(令和7年度)の目標額を超える実績
- 農・畜・林・水産物全ての輸出額が増加し、公表開始以降最高額を更新



※輸出額については億円単位で表示。対前年度比は百万円単位で計算したものを表示。  
※ラウンドの関係で合計が合わないことがある。





# 令和3年度 鹿児島県産農林水産物の輸出額(品目別・国地域別)

- 品目別では、畜産物が約123億円、農産物が約19億円、林産物が約33億円、水産物が約135億円。
- 主な輸出先国・地域では、米国 約145億円、香港 約41億円、中国 約32億円、台湾 約26億円、EU 約22億円、シンガポール 約12億円。

## 輸出額の比較

(1) 品目別 (単位: 億円, %)

農林水産物	令和2年度	令和3年度	前年度比
畜産物	105.97	123.48	117
農産物	13.78	19.08	138
林産物	31.27	33.30	106
水産物	62.81	134.75	215
合計	213.83	310.61	145

(2) 主な品目別 (単位: 億円, %)

区分	令和2年度	令和3年度	前年度比	
畜産	牛肉	88.92	114.31	129
	豚肉	6.99	2.64	38
	鶏肉	4.54	2.87	63
	鶏卵	5.52	3.66	66
	小計	105.97	123.48	117
農産	お茶	7.63	11.40	149
	さつまいも	5.21	6.45	124
	その他	0.94	1.23	131
	小計	13.78	19.08	138
林	丸太など	31.27	33.30	106
水産	養殖ブリ	58.17	105.93	182
	養殖カンパチ	0.82	2.85	348
	鯉節	0.35	16.95	4,843
	その他	3.47	9.02	260
	小計	62.81	134.75	215
合計	213.83	310.61	145	

## <品目別輸出額>

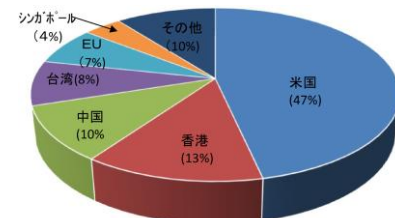
- ・ 畜産物は、米国、香港、EU、台湾向けの牛肉を中心に約123億円
- ・ 農産物は、米国向けの抹茶やEU向け有機栽培茶、アジア向けのさつまいもを中心に約19億円
- ・ 林産物は、中国向けの丸太を中心に約33億円
- ・ 水産物は、米国向けの養殖ブリを中心に約135億円

## <国・地域別輸出額>

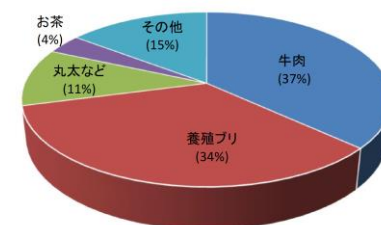
- ・ 米国は、養殖ブリ、牛肉を中心に約145億円
- ・ 香港は、牛肉、鶏肉等を中心に約41億円
- ・ 中国は、丸太、養殖ブリを中心に約32億円
- ・ 台湾は、牛肉、鯉節等を中心に約26億円
- ・ EUは、牛肉、お茶を中心に約22億円
- ・ シンガポールは、牛肉、さつまいもを中心に約12億円
- ・ タイは、牛肉、さつまいも等を中心に約5億円

(3) 輸出相手国別 (単位: 億円, %)

区分	令和2年度	令和3年度	前年度比
米国	78.68	144.60	184
香港	47.97	41.14	86
中国	28.08	31.69	113
台湾	19.97	26.02	130
EU	9.66	22.32	231
シンガポール	10.36	12.32	119
タイ	4.50	5.13	114
その他	14.61	27.39	187
合計	213.83	310.61	145



国・地域別の輸出額



品目別の輸出額

※ ラウンドの関係で合計等が合わない場合がある。

※ 県産農林水産物を輸出している事業者に取り組み調査等を行い、回答があった170事業者について取りまとめているため、県産農林水産物全ての輸出額ではない。



# 「鹿児島県農林水産物輸出促進ビジョン(改訂版)」の概要

## 趣旨

- ◇ 国内の食市場等が減少していく中、本県の基幹産業である農林水産業を維持・発展させるため、国際経済連携等によるグローバル市場の出現を新たなビジネスチャンスと捉え、県産農林水産物の更なる輸出拡大に向けた指針となるビジョンを平成30年3月に策定
- ◇ 令和3年度の輸出実績が約311億円となり、当初の目標額を超える伸び。
- ◇ 輸出重点品目、輸出重点国・地域を明確にした上で新たな輸出目標額を設定し、その実現に向け、鹿児島の強みを生かした戦略的取組を継続的に展開

## 現状・課題

### 【現状】

- 令和3年度(2020年)の県産農林水産物の輸出額は、過去最高の約311億円

### 〈内訳〉

- ・牛肉等の農畜産物：約142億円
- ・丸太等の林産物：約33億円
- ・養殖ブリ等の水産物：約135億円

- 主な輸出相手国・地域は、農畜産物がアジア諸国(お茶：米国)、林産物が中国、水産物が北米

### 【課題】

- 更なる輸出拡大に向けては、継続的に

- ① 輸出相手国・地域の動植物検疫や認証基準に対応した産地づくり
- ② 農林水産物を持続的に輸出するための生産基盤の強化
- ③ ニーズに応じた商品づくり
- ④ 高品質流通技術の開発・普及
- ⑤ 輸送コストの低減
- ⑥ 海外での認知度向上

の取組等が必要

## ビジョンの実現に向けた戦略的取組

輸出サプライチェーンを「つくる」「あつめる・はこぶ」「うる」の3つに柱立て。それぞれに「かう」側の視点(★)を入れた取組を進める。

### つくる

- 輸出向け生産者の裾野の拡大
- 輸出相手国等ニーズの把握(★)
- AI、IoT等による生産コストの低減
- GAP・ASC等の認証取得の促進(★)

など

### あつめる・はこぶ

- 輸出集荷組織の育成
- 混載等による輸送コストの低減(★)
- 小ロットに対応した輸送手段等の構築
- 鮮度保持技術の研究・開発の推進

など

### うる

- 海外で魅力をPRできる人材の育成
- SNS等を活用した情報の発信(★)
- 統一ロゴなどによるブランドイメージの向上
- ECサイト等多様な販売ツールの確保(★)

など

\* 目標達成に向け、ロードマップに基づく計画的な取組を推進

### 重点品目

牛肉、豚肉、鶏肉、鶏卵、お茶、さつまいも等/木材(丸太等)/養殖ブリ・カンパチ等

### 重点国・地域

香港、シンガポール、台湾、タイ、中国、韓国、米国、EU等

### 推進体制等

司令塔となる鹿児島県農林水産物輸出促進ビジョン推進本部(平成30年設置)と品目別部会によりビジョンの実現に向けた取組を推進

国際的経済連携協定の進展を見据えながら戦略的な取組を展開

## 目指す姿 令和7年度(2025年)

農林水産物の輸出拡大による「攻め」の農林水産業を実現

- ◆ アジアや欧米に向け農林水産物が安定的・持続的に輸出

- ◆ 海外での県産品の認知度が高まり、かごしまブランドが確立

- ◆ 多くの農林漁業者が輸出に取り組み、所得向上により後継者が確保され、稼ぐ力の向上による農林水産業の発展に貢献

輸出目標額は基準年(平成28年度)の約3.2倍  
約500億円を実現



# 「鹿児島県農林水産物輸出促進ビジョン」の推進体制

- 平成30年3月に策定した「県農林水産物輸出促進ビジョン」の実現に向けた司令塔として、「県農林水産物等輸出促進ビジョン推進本部」を設置
- 「(公社)鹿児島県貿易協会」と連携しながら、「オール鹿児島」の取組を着実に展開

## 【 県農林水産物輸出促進ビジョン推進本部 】

各生産者団体・各関連団体等と連携した各品目毎の取組の方針・計画・実践・進行管理、施策の推進など

### 庁内体制

#### 本 部 会 議

構成：副知事(本部長)/農政部長/環境林務部長/商工労働水産部長/  
総合政策部産業政策総括監

役割：政策目標の達成及び取組の実施状況の把握/施策の決定など

#### 幹 事 会 議

構成：農政部かごしまの食輸出戦略総括監(幹事長)/  
かごしまの食輸出戦略室長/農産園芸課長/畜産課長/  
かごしま材振興課長/水産振興課長/販路拡大・輸出促進課長/  
総合政策課参事

役割：政策目標の達成及び取組の実施状況の把握/施策の検討など

### 推進主体

#### 報告

#### 企画戦略会議

総合的な取組の企画、品目部会間における横断的な取組の調整など

- ・ 県（かごしまの食輸出戦略室，農産園芸課，畜産課  
かごしま材振興課，水産振興課）
- ・ 品目部会（5部会）の協議会

企画・調整

取組把握

### 品目部会

#### 『青果物部会』

【県園芸振興協議会】（事務局：農産園芸課）

#### 『お茶部会』

【かごしま茶輸出対策実施本部】（事務局：県茶業会議所）

#### 『畜産部会』

【県食肉輸出促進協議会】（事務局：畜産課）

#### 『林産物部会』

【県産材輸出促進協議会】（事務局：かごしま材振興課）

#### 『水産物部会』

【県水産物等輸出促進協議会】（事務局：水産振興課）

### テーマ別部会

#### 『物流部会』

「あつめる・はこぶ」の戦略的取組  
の技術的課題を検討  
（事務局：かごしまの食輸出・ブランド戦略室）



連携

(公社) 鹿児島県貿易協会

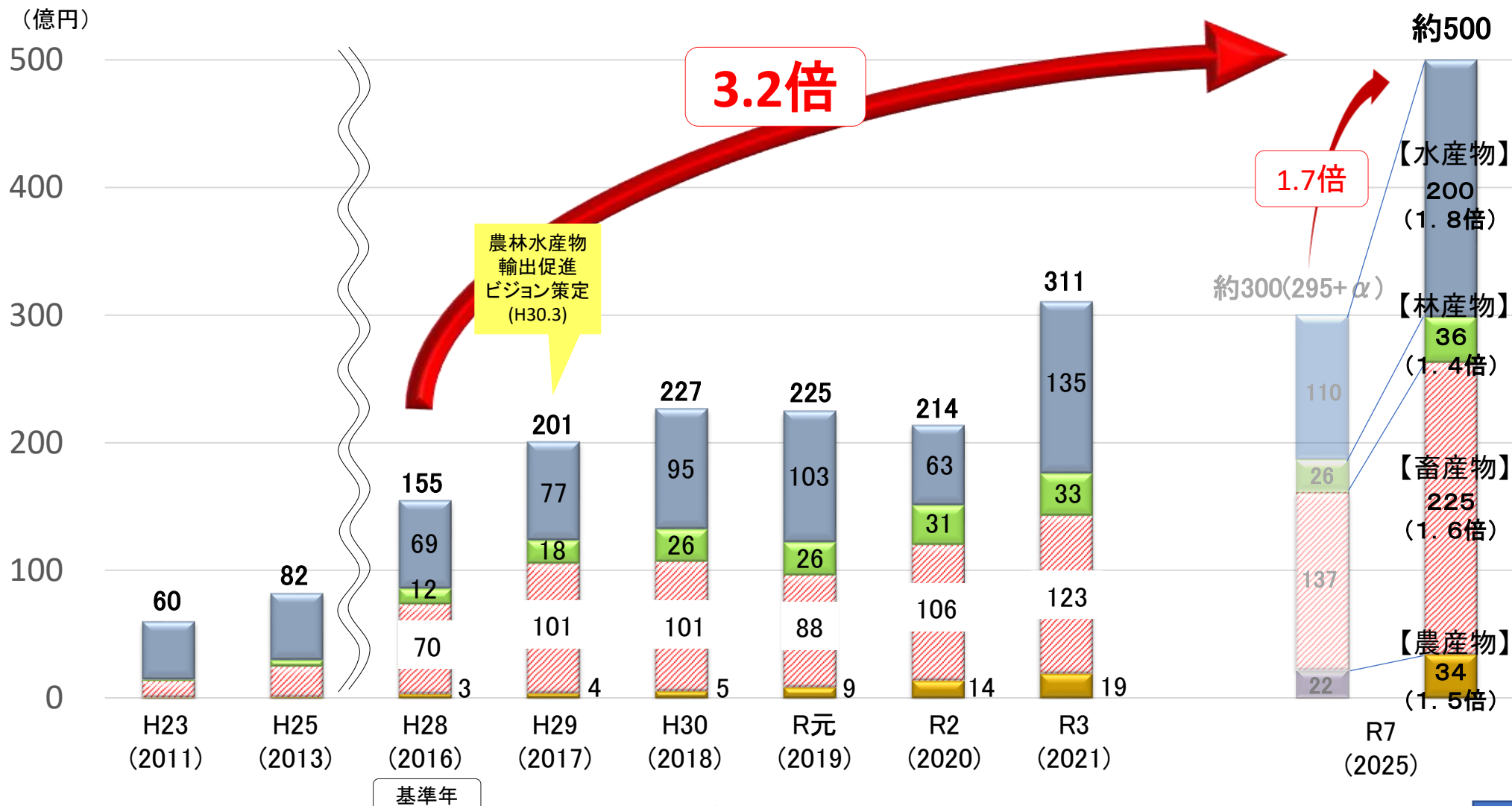
〔事務局：販路拡大・輸出促進課〕





# 鹿児島県産農林水産物の輸出額の推移と目標額

- 令和3年度の県産農林水産物の輸出額は対前年度比45%増の約311億円となり、県産農林水産物輸出促進ビジョンで定める目標額(令和7年度に約300億円)を超える実績となりました。(公表開始以降最高額を更新)
- 令和4年度に同ビジョンを改訂し、**新たな目標額を約500億円(基準年の約3.2倍)に設定しました。**



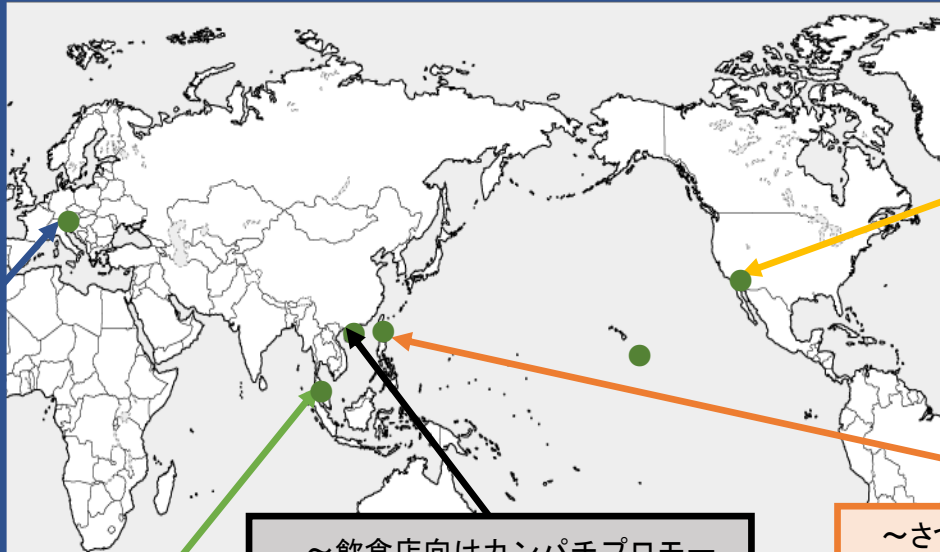
※輸出額については億円単位で表示。対前年度比は百万円単位で計算したものを表示。  
 ※ラウンドの関係で合計が合わないことがある。



# 農林水産物輸出促進ビジョンに基づく取組事例

- 県では、農畜水産物や焼酎などの特産品の認知度向上を図るためのトップセールス、関係機関・団体と連携し、海外で開催される食品見本市への参加、海外バイヤーを招へいた商談会の開催、海外小売店でのかごしまフェア等を開催。
- コロナ禍でも現地輸入業者等と連携した取組を展開

## 輸出先国へのPR・販売促進の主な取組



### ～フランス知事トップセールス～

場所：フランス・パリ  
 時期：令和4年10月16日～22日  
 品目：農畜水産物、焼酎  
 内容：農畜水産物、焼酎等の特産品の認知度向上を図るためのトップセールス



### ～食品見本市への参加～

名称：SIAL Paris 2022  
 (フランス・パリ)  
 時期：令和4年10月15日～19日  
 品目：和牛肉・ブリ  
 内容：現地バイヤーとの商談

### ～SNSを活用したかごしまの食プロモーションの展開～

場所：香港、シンガポール  
 時期：令和5年1月10日～2月26日  
 内容：海外インフルエンサーとタイアップし、県産農畜水産物を使用した特別メニュー販売



### ～飲食店向けカンパチプロモーションの開催～

場所：マレーシア  
 時期：令和4年12月5日  
 内容：飲食店のシェフ向けにセミナー及び試食会を開催



### ～米国での鹿児島フェアの開催～

名称：どんどん鹿児島フェア  
 (米国・ハワイ、カリフォルニア)  
 時期：令和4年6～7月  
 品目：加工食品(菓子類、麺類等)  
 内容：試食宣伝・販売  
 販促資材を活用したPR



### ～さつまいも・きんかんフェアの開催～

場所：台湾量販店  
 時期：令和4年12月8日～21日(さつまいも)  
 令和5年2月10日～12日(きんかん)

### ～台湾での建材PRの実施～

場所：台湾台北市  
 時期：令和3年12月  
 内容：第33回台北国際建築建材展に設置した鹿児島県ブースにおいて県産CLT等の紹介と商談活動を実施





# 民間企業等との連携(県産品の販路拡大等に関する連携協定締結)

- 平成29年に、鹿児島アグリ&フード金融協議会、ヤマトホールディングス、ANA総合研究所と鹿児島県産品の販路拡大及び観光促進に向けた連携協定を締結
- 令和2年に、株式会社パン・パシフィック・インターナショナルホールディングスと鹿児島県産品の海外への販路拡大等に関する連携協定を締結

## 鹿児島県産品の販路拡大及び観光促進に向けた連携協定

【締結時期】平成29年1月25日

### 【協定締結者】

- ・鹿児島県
- ・鹿児島アグリ&フード金融協議会
- ・ヤマトホールディングス
- ・ANA総合研究所



### 【協定の概要】

- ① 鹿児島県産品の販路拡大に関すること
  - (1) 鹿児島県産品の国内外における物流ネットワークの拡充に関すること
  - (2) 鹿児島県産品の国内外への商流拡大に関すること
  - (3) 鹿児島県内事業者の販路拡大に向けた取組への支援に関すること
- ② 鹿児島県の観光促進に関すること

## 鹿児島県産品の海外への販路拡大等に関する連携協定

【締結時期】令和2年10月12日

### 【協定締結者】

- ・鹿児島県
- ・株式会社パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス



### 【協定の概要】

- ① 鹿児島県産品の海外への販路拡大に関すること
- ② フェアを通じた「KAGOSHIMA」の認知度向上に関すること
- ③ 鹿児島県内港湾等からの輸出促進に関すること
- ④ その他、鹿児島県の地域振興に資すること



# 県産農畜水産物輸出促進事業 展開イメージ

関係機関と連携し、着実に鹿児島の輸出サイクルを確立

①輸出に意欲的な生産者の確保・育成  
【つくる】

ニーズに対応した輸出アイテムの拡大

(6,000千円) (R4: 10,000千円)

## ■「グローバルファーマー育成」支援

①個々の生産者を対象

- ②輸出先国の規制・ニーズに対応するための先行投資経費（病害虫対策，国際水準GAP等認証等）を支援
- ③2/3補助・県単（1百万円以内/年（原則単年度））
- ④KPI設定（3年後の輸出目標額）

【取組例】

- ✓ 国際水準GAP取得；アジア向けさつまいも等
- ✓ 国際水準GAP更新に必要な機器整備；アジア向けだいこん

点→面

生産者を増やし産地化を促進

定時・定量で輸出できる産地づくり

(48,480千円) (R4: 20,480千円)

## ■「グローバル産地づくり」支援

①産地（3戸以上の連携体，JA，協議会，大規模法人等）を対象

- ②輸出向け産地形成に係る計画策定等を総合的に支援
- ③定額補助・国庫（5.5百万円以内/年（3年継続））
- ④KPI設定（3年後の輸出目標額）

【取組例】

- ✓ JA県経済連（さつまいも，抹茶，きんかん）
- ✓ 鹿児島堀口製茶（お茶）
- ✓ 大吉農園（キャベツ，かぼちゃ）
- ✓ 鹿児島県漁連・東町漁協（ぶり）

継続拡充  
(国費)

②商流の構築・拡大  
【あつめる・はこぶ】

県産農産物輸出商社・集出荷業者への支援

(24,500千円) (R4: 37,000千円)

## ■かごしま農産物等海外販路開拓支援

- ①県内産地と連携する輸出商社又は集出荷事業者による輸出環境整備や海外営業活動を支援
- ②トライアル輸送費，渡航旅費，バイヤー招へい，等を総合的に支援
- ③県単（5百万円以内/プロジェクト）
- ④KPI設定（3年間の輸出額）

【取組想定例】

- ✓ アジア向け青果物集荷・輸出
- ✓ タイ向けさつまいも等集荷・輸出
- ✓ 米国向け冷凍焼き芋輸出
- ✓ 香港向け青果物集荷・輸出

組替  
新規

③海外へのPR・販売促進活動の強化  
【うる】

「KAGOSHIMA」の認知度向上と販売促進活動

(25,500千円) (R4: 47,840千円)

※畜産関係：16,680千円 (R5: 組替新規事業)

## ■デジタルコンテンツによる海外プロモーション

- ①デジタルコンテンツを活用した県産農産物等PR等輸出先国での更なる認知度向上や需要喚起のため，ECサイト等を活用したプロモーションや喫食体験機会の提供や試食付き商談会の開催 等
- ②かごしま食ウェブサイトの海外ページ充実

## ■海外フェアや商談会の開催

- ①アジアを中心とした海外小売店フェア
- ②SHIP&AIRの活用促進に向けた沖縄国際物流ハブ活用促進商談会

## ■統一ロゴマークを活用したPR資料の作成

品目ごとの取組

### ■かごしま茶のPR・販売促進活動強化

- ・「かごしま茶」の新たな販路開拓支援
- ・かごしま茶「せいめい」研究会の活動支援等

### ■県産食肉のPR活動の強化

- ・「鹿児島和牛」ならではの魅力が詰まったストーリー仕立てで輸出先国の卸業者等や消費者などに向けてPR活動実施

### ■県産食肉の輸出促進支援

- 輸出先国の卸業者等に県食肉輸出促進協議会会員のカット技術者を派遣，又は輸出先国のカット技術者への指導実施

継続

組替  
新規

輸出促進体制の強化

新規  
(国費)

輸出推進体制（県版GFP）の構築と大ロット輸出産地のモデル化  
(100,000千円)

## ■GFPフラッグシップ輸出産地形成プロジェクト

- ①事業主体：県
- ②県版GFPの組織化や輸出先国のニーズ等に対応する大ロット輸出産地のモデル構築
- ③定額補助・国庫（上限100百万円）
- ④KPI設定  
令和7年度輸出目標額約500億円

【取組想定例】

- ✓ きんかん輸出産地形成
- ✓ 有機さつまいも産地形成
- ✓ カンパチ人工種苗安定供給体制構築
- ✓ 志布志港発混載輸出体制構築（冷蔵冷凍等）
- ✓ 品目横断的なPR





# GFPフラッグシップ輸出産地形成プロジェクトの概要

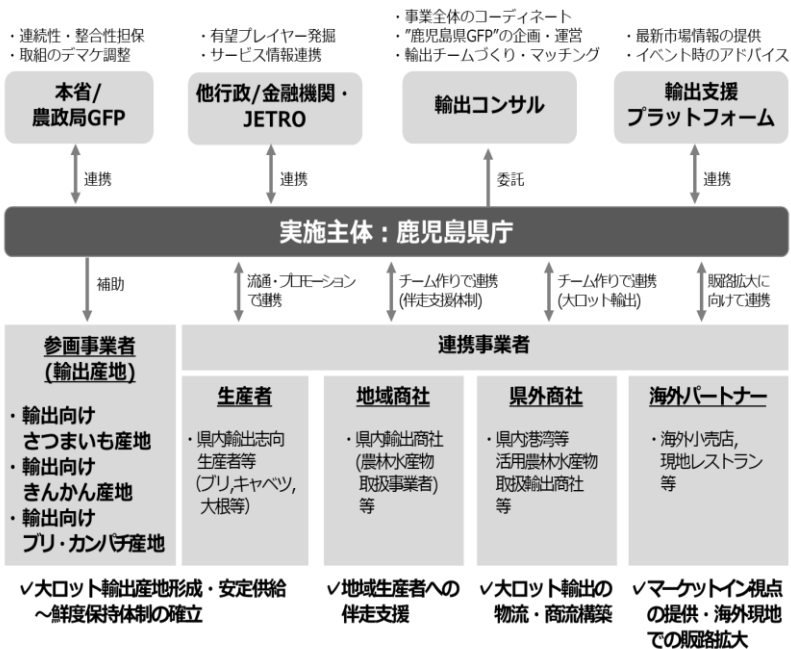
事業実施主体

鹿児島県

実施対象品目

さつまいも、きんかん、ブリ・カンパチ

## 推進体制



## 取組内容

### 大ロット輸出に向けた生産方法の転換

<さつまいも>

▶輸出向けさつまいもの有機栽培への転換  
有機栽培に向けた栽培・技術指導、資材導入支援及び鮮度保持技術等を検証。

<きんかん>

▶輸出向けきんかんの防除体系の見直し  
海外中華圏を中心に縁起がよい果物として需要が高い一方、残留農薬基準が厳しい。  
台湾等の現地高級スーパーからの大ロットでの引き合いに応えられるよう栽培・技術指導を行った上で、残留農薬検査や台湾向け残留農薬基準対応の防除暦のアップデートを行い、作成した防除暦に関しては、他産地への横展開を実施。

<ブリ・カンパチ>

▶種苗は、中国からの輸入割合が高く、輸入～導入～育成に係るコストが課題。人工種苗の安定供給体制構築を実施。  
▶SDGsの観点から他国産種苗に頼らない種苗生産・トレーサビリティを担保

<ブリ・カンパチ>

▶養殖漁場の効率的な運用のため、漁場の利用状況を調査し、効率的な漁場(生け簀)運用を図る。



さつまいも



きんかん



ブリ



カンパチ

### 集荷から船積みまでの方法の転換

産地近郊の港湾を活用した品目横断のコンテナ輸出体制の構築

▶きんかんと混載可能な青果物(主に野菜)の拡大・混載輸出スキームの確立  
▶主に神戸港・京浜港から大ロットで輸出されているブリ・カンパチについて、志布志港を活用した冷凍加工品との混載可能性を検証

### 販路拡大・認知度向上等

▶プロモーション対象店舗のバイヤー・イベントに参加したキーバイヤーに関しては、フォローアップを兼ねて鹿児島への招へいを実施する。  
▶産地の魅力・産地での食べ方の提案を理解頂くことで、鹿児島県産品の“ファン化”を促し、鹿児島県産品の取り扱いに繋げる

## 輸出額の目標 (百万円)

品目	令和3年度	令和6年度
さつまいも	645	994
きんかん	20	26
ブリ	10,593	15,350
カンパチ	285	365





**KAGOSHIMA  
JAPAN**

御静聴ありがとうございました